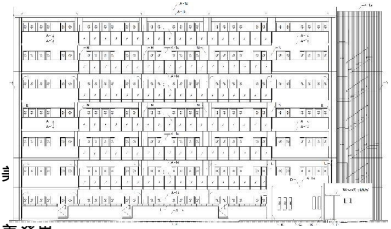


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)万代山本寮 計画変更新築工	階数	地上7F
建設地	大阪府八尾市東山本新町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種	平均居住人員	36 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年10月28日
敷地面積	990 m ²	作成者	東西建築サービス株式会社 高松美登里
建築面積	448 m ²	確認日	2024年10月28日
延床面積	2,097 m ²	確認者	東西建築サービス株式会社 高松美登里



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 G 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 3.2	Q2のスコア= 3.2	Q3のスコア= 1.8
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 4.0	LR2のスコア= 2.9	LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		
室内環境に配慮するとともに、環境にも配慮し計画をした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材等にF★★★★をほぼ全面的に採用した。	給排水配管に耐用年数を長いものを採用している。	可能な限り緑地を設置した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用した。	ノンフロン断熱材を採用した。	広告物照明の設置なし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)万代山本寮 計画変更新築工事						
建設地		大阪府八尾市東山本新町						
用途／区分		集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	断熱性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル						4	
④	エネルギー消費性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル						1	
		住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
		エネルギー消費量の報告						対象外
【評価項目】								
項目		評価内容					スコア	評価
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.6	5
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								